

東日本大震災の現状と課題

～地震・津波災害から一年半後のいくつかの被災地を訪問して～



調査期間：2012.09.25～27.

陸前高田市広田町



津波被害の大きかった広田町大久保地区



仮設住宅↓

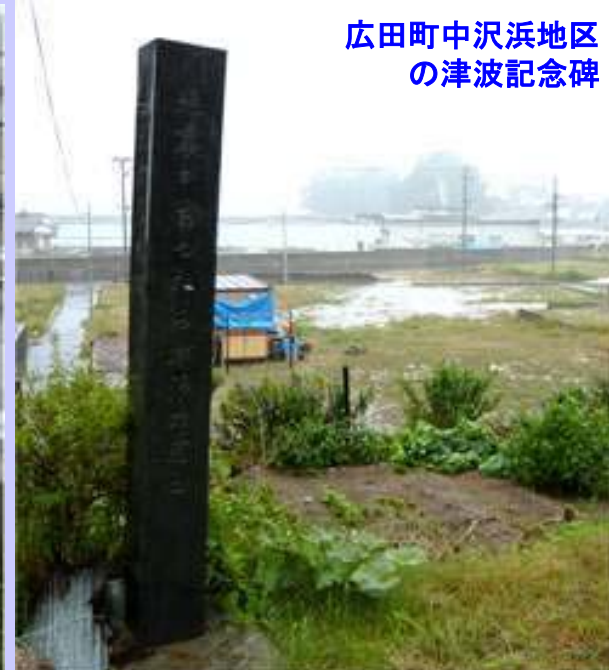
外洋と広田湾の双方から津波に襲われた小友町地区



広田町大久保地区の津波記念碑



広田町中沢浜地区の防潮堤



広田町中沢浜地区
の津波記念碑

陸前高田市中心部



高田松原の一本松は保存加工のため一時撤去されていた



中央公民館周辺の現状



中央公民館前で転倒していた巨大な礎石



陸前高田市街地には未だ復興住宅は見られない



国道45号により津波から護られた気仙町の住宅



建立名：岩頭の女(ひと)

建立日：1983年8月12日 製作者：柳原義達氏 寄贈者：塩釜市 臼井氏

**等身大の裸婦のモニュメント像で、大きな台座の上に立っていて高田市内を見つめている
そんな感じのする像です。**

ヤフーを『岩頭の女』で検索したらすぐさま上記の写真と解説が現れて、今さらながらネット情報のすごさに驚いている。お蔭で津波災害を受ける以前の巨石の置かれていた状態を確認することができて大変感謝している。[2012.10.2. 追記]

気仙沼駅周辺・鹿折地区・唐桑半島



普通に機能している気仙沼駅周辺



鹿折地区に残された大型巻き網漁船を津波災害のモニュメントとして保存する構想もあるとのこと



唐桑半島南端の津波記念碑



各地に開設された復興元気村



唐桑半島長浜漁港で進められている災害復旧工事(左上はその掲示板)

石巻～女川

仙石線/石巻線(一部区間は代行バス)を利用して



業務中

田嶋建設・事業所移転休業中

事務所 石巻市門脇2丁目11番地11号

期間 平成24年 平成24年
月 8日～10月9日

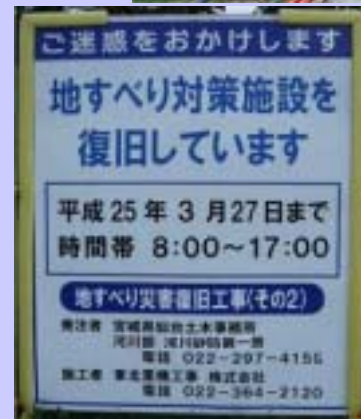
施工 有限会社 晴
石巻営業所
TEL:0225-90-5590

監督 石巻市生活環境部
災害廃棄物対策課
TEL:0225-90-5173

石巻市



仙台 (1978年宮城県沖地震からの宿題)

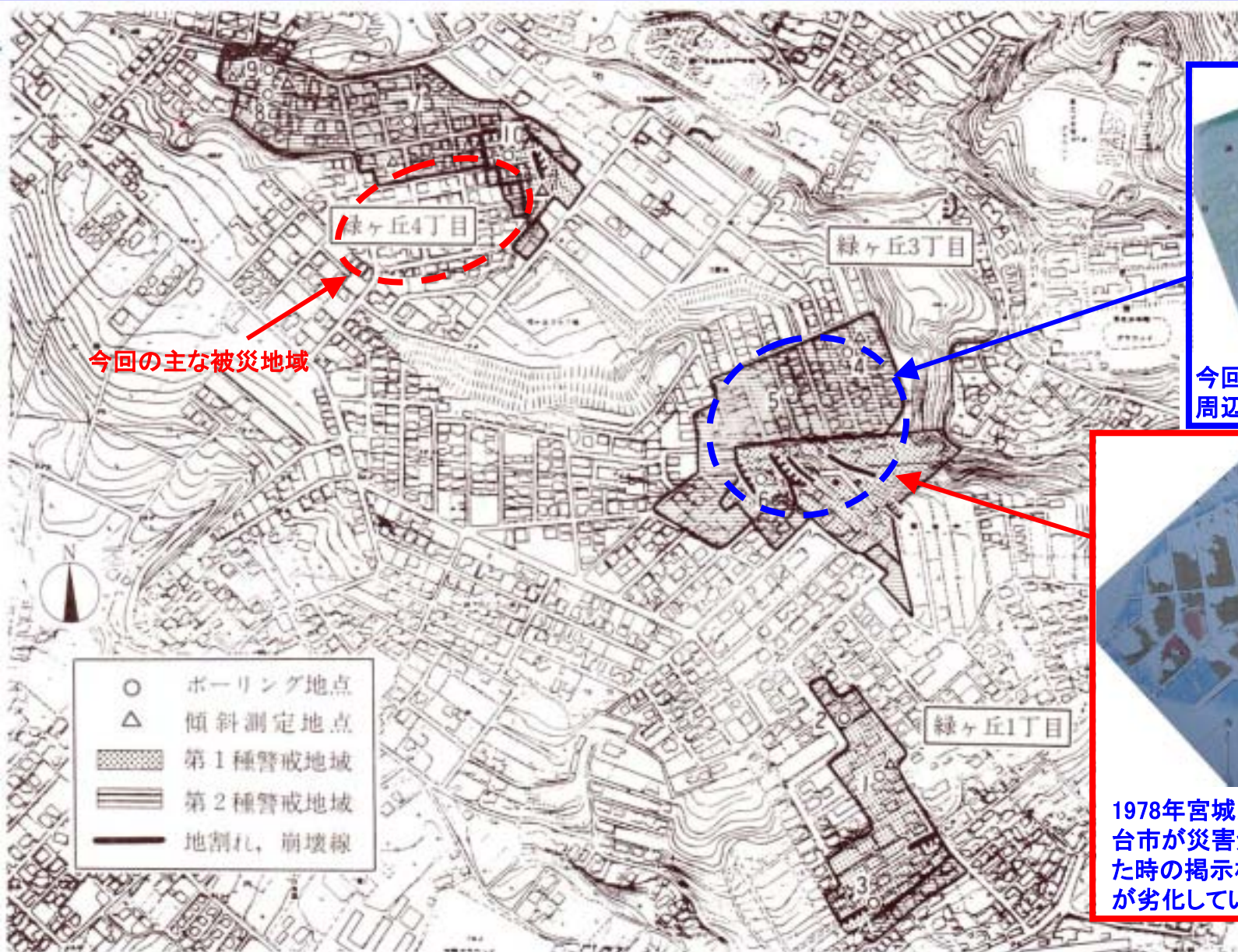


- [右上] 緑ヶ丘3丁目で進行中の地すべり対策のための防災工事
- [右中] 今回の防災工事のための周辺居住者への掲示板
- [右下] 1978年宮城県沖地震の後で災害危険区域指定を行った時の掲示板. 現在では掲示板が劣化していて判読できない.



凡例
仙台

仙台市緑ヶ丘団地 (1978年宮城県沖地震からの宿題)



今回の防災工事のための周辺居住者への掲示板



1978年宮城県沖地震の後で仙台市が災害危険区域指定を行った時の掲示板. 現在では掲示板が劣化していて判読できない。

仙台平野の津波災害に関係して

仙台滞在を終えて帰りの深夜高速バスを待つ間、仙台駅に居て偶々佐伯一麦著『震災と言葉』(岩波ブックレット)が書店で目に入った。早速読んでいたら、浪分神社と閑上の日和山についての記述があって大変びっくりさせられた。浪分神社は先ほど訪ねてきたばかりであり、閑上の日和山も昨年8月に訪問していたからであった。

同氏の記述によれば、浪分神社は貞観津波の直後に建てられ、ここまで津波が到達したことを伝える意味で浪分神社と名付けられたとのこと。神社の帰りにバスを待ちながら近所の老婦人から伺ったところでは、地震学者らしい人を最近よく見かけること、今回、津波がここまで来なかったのは海側に仙台東部道路ができたからではないか、とのお話が印象的であった。

佐伯氏によれば、閑上の日和山は明治の三陸津波で流されてしまい、港町には日和山が必要なので大正時代に人力で築き直したとのこと。今回の津波を目撃した人によると、頂上の松の木を越えて波が押し寄せたとのこと。同氏の記憶では昭和8年の三陸津波のあとで石段の脇に戒石(戒めの石)が建立されていたはずで、それが今回の震災後は、津波に流されてしまったらしいとのことであった。

下段右端の写真は昨年8月に撮影していた写真の中から探し出した『震嘯記念』の石碑で、今回の画像処理によって一部判読できるようになったところである。



霞目の浪分神社



閑上の日和山 (撮影:2011.8.11.)



日和山の戒石 (撮影:2011.8.11.)

